MM ジュニア編集局

2018年８月からスタートした、ＭＭジュニア編集局の記者たちが、はじめて取材して、記事を書きました。
すべての記事はのせられないので、抜粋になります。ウエブサイトからすべての記事がみられます→→→

「横浜みなと博物館」にたくさんの人に来て欲しい！

記事：角田 和瑛

ぼくたちは、日本丸の横にある、横浜みなと博物館にいき、学芸員の奥津さんに案内してもらいました。普段見ることのできない裏側に入ると、巨大な書庫があり、そこには約 2万5千冊の本がありました。それらの本はみなと博物館に勤務している学芸員の人が、読み、新たな資料を見つけ、展示するためにあります。学芸員の人は今ある2万5千冊の本をほぼ読んでおり、その内容が頭に入っているといいます。ぼくも本が好きで 200冊以上は読んでいるのですが、どんな内容だったか忘れてしまうこともあります。学芸員の人はすごいと思いました。

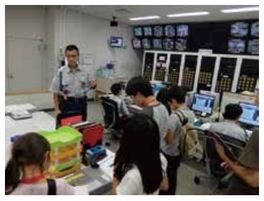
その他、おどろいたことは、掃除をする人のことです。とても広い博物館なのに 2人で掃除してしまうというのです。今回の取材で博物館の裏側など、貴重な場所をみせてもらい、とても楽しかったです。この貴重な体験を広め、横浜みなと博物館のよさをたくさんの人に伝え、たくさんの人に来てもらいたいと思いました。

(2018.8.25)

みんなのシンボルランドマークタワー

記事：山本 未來

ランドマークタワーは、72階まであって、オフィスやショッピングモール、展望台、ホテルなどがあります。このビル内のオフィスでは、約 1万人も働いている人がいると聞いて、とてもびっくりしました。今回一番気になったのが、安全についてです。地震や火事、事故、台風などの対策はどうやっているのかな、とてもたくさんの人が訪れるビルでは、どんな工夫をして守っているのかなと思いました。まず、防災センターではモニターで、事故などが起きていないか交代で確認しています。さまざまなところに防犯カメラが置いてありました。



その防犯カメラの映像をたくさんのモニターでいつも見ているそうです。そして、夜になると全部の扉に鍵をかけてパッシブセンサーというもので、動きを感じたら、人が入ったということで反応があり、すぐにかけつけられるようになっています。火事の時には、火災探知機が 3つのレベルで知らせてくれます。もし、火事が広がってしまったら、シャッターを閉じて防ぎます。

さらに、ランドマークタワーは、強風で揺れてしまう、ということを知りました。そのため、ランドマークタワーの屋上 70階には大きな振り子が対角線にそって 2つあります。その重さは1つ170 t もあるそうです。ランドマークタワーが揺れると、反対方向に振り子を揺らし、バランスをとるのです。

(2018.9.19)

熱供給のひみつ

記事：出口 遼馬

みなとみらい熱供給とは、みなとみらいの地域ほとんどの建物に冷暖房に使う蒸気と冷水を送っている会社です。地域導管という管がみなとみらいの地下を通っていて、その管を使って社内で作った蒸気と冷水をみなとみらいの建物に届けています。

熱供給では、ガスや電気を使ったさまざまな方法で、蒸気と冷水が作られていますが、その中から 2つ紹介します。冷房では、普通の水なら凍ってしまう温度でも、凍らない特別な液体を使って、水を冷す方法。暖房では、ボイラーという、大きなやかんのような機械でガスを燃やし、400度近くの熱い蒸気を作る方法などがあります。建物で使い終わり、水に戻ってしまった蒸気と、ぬるくなった冷水を回収しボイラーや冷凍機で蒸気、冷水に戻します。冷暖房がこんな風に作られていることを知っていましたか？冷房・暖房を使うとき、少し熱供給の事を思い出してみてください。(2018.10.17)

横浜銀行のすすめ

記事：橋本 みなみ

2020年で創業100年を迎えるという、横浜銀行の本店に行きました。横浜銀行は大きな統合がないまま、ここまで成長してきたそうです。銀行には主に 3つの仕事があります。お金を預かる、貸し出す、の 2つは知っていましたが、3つめのお金を送るという仕事は知りませんでした。このお仕事のおかげで私たち利用者は ATMで遠い人にお金を渡すことができますし、また大金を手渡しで渡す必要がなくなりました。お給料はこの ATMをつかって、大方渡されるので、不可欠で社会のしくみを担う大切な仕事だと思いました。

ところで、銀行のトップの役割の方々を「頭取」と呼ぶ理由は知っていますか？頭取と呼ばれるようになったのは、2つの説があります。雅楽の演奏における、主席演奏者を称する「音頭取り」に由来する説と、「筆頭取締役」の略称に由来する説です。銀行はお金が生まれてからずっと不可欠で、名称は違えども存在してきました。

本店の前には、ひときわ目を引く高田洋一さんの「水面の鳥」という赤い作品があります。なんとこの彫刻、風を受けるとゆっくり回転するしくみです。ぜひ一度これを見に行って、歴史ある横浜銀行の本店に足を踏み入れてみましょう。ビル内にある大きな水時計は美しくて、つい長い間見てしまいます。私のオススメです。

(2018.10.3)

ゆかいな縁市

記事：中沢 璃帆

グランモール公園で行われた「みなとみらい縁市」に行ってきました。

「陶磁器工房器楽」では、電動ろくろ体験コーナーがあり、ジュニア記者の 1人が代表で体験しました。お店の方がやっているのを見るとかんたんそうに見えましたが、ジュニア記者にはとても難しそうでした。売っている物も作るのがとても難しそうでした。猫や人形のかわいいはしおきがあり、猫のうらにはそれぞれの名前がついていて「トトロ」の様な色をした子の名前は「トトロ」ミケネコは「ミケ」というかわいい名前がついていました。

キッチンカーで参加している「からあげ専門店すごいっ手羽」は夫婦でお店を営んでいました。からあげのころもは、カリッとしていて、中はとてもジューシーで言葉で全てを表わせない程おいしいと言うより、完璧なからあげでした。

最後に取材したのがバンザイ LIFE というバンドです。なんとメンバーは、ブレーメン商店街で働いている人々なんです。今回の縁市では、「ブレーメン音頭」、「パターン」などの曲を歌っていました。どの曲も聞いていてとても楽しいです。

今回、私は縁市に行って、みなとみらいのことをより知ることができてうれしかったです。

(2018.12.1)

街のシンボル『横浜美術館』

記事：村田 こころ

横浜美術館に取材にいき、普段はみることのできない特別な部屋を見せてもらいました。

一つ目は、中央監視室です。ここでは 24時間 365日、館内の警備や、温度や湿度の管理をしているそうです。美術品に「最適な温度は 22度くらい、湿度は 55%くらいだと教えてもらいました。もし停電になっても 10時間くらいまでは自家発電ができるそうです。横浜美術館では、いままでに一度も作品を盗まれたことがありません。それはきちんと管理されているからだと思います。

二つ目は美術品の搬入口です。美術品を積んだトラックから、展示室や保管庫へ、安全でスムーズな移動ができるしかけがたくさんありました。たとえば、トラックの荷台の高さまで大きなリフトが移動し、美術品をスムーズに乗せることができる、などです。そのほかにも美術に関する 11万さつもの蔵書がある図書館や、一般の人が美術を学ぶためのアトリエを見学しました。

今回、本当は入ることができない場所をたくさんみせてもらって、とてもうれしかったです。とくにこの美術館がみなとみらいで一番古い建物だと言うことにびっくりしました。

(2018.11.24)

MMジュニア編集局ウェブサイト
http://mmjr.minicity-plus.jp/

MM ジュニア編集局

FMヨコハマでの貴重な体験

記事：山口 あい

FMヨコハマは、1985年 12月 20日に誕生したラジオ局で、朝 6時から夜の11時まで、みなとみらいのランドマークタワーの中にあるスタジオから、生放送をしています。その生放送をしているスタジオを取材する貴重な体験をすることができました。FMヨコハマは、泰野市の大山というところにアンテナを置き、電波をとばしていて、横浜だけでなく、神奈川エリアを中心に、栃木県や埼玉県までも届いています。

今回私たちは、15時から19時まで、生放送中の「Tresen」を見学させていただきました。DJの植松さんとさんまさんのお嬢様の IMALUさんが生放送しているところと、ニュースキャスターがニュースを伝えているところを見ることができました。植松さんと IMALUさんがお話をすごくなめらかにしていたので、感心しました。また、毎朝ラジオで聞いているニュースをニュースキャスターが話しているのを間近で見ると、耳に聞こえてくるだけではなくスタジオで原稿を読んでいるキャスターも目で見えて、いつもとは違った聞こえ方でした。

他にも、6万枚もある CDライブラリーや、録音するちいさめのスタジオや、番組を編集をするスタジオも見ることができ、実際にスタジオの中にはいり、ヘッドフォンをつけて、写真も撮るという、貴重な体験もできました。本当のスタジオで取材をすることができ、これからはもっと楽しく聞くことが出来そうです。

(2019.1.15)

すごい！神奈川のＦＭヨコハマ

記事：小林 廉

ＦＭヨコハマは、1985年、12月に生まれたラジオ局です。基本的に、朝～夜の 24時間、日曜日の夜中を除いて、ずっと放送しています。ＦＭヨコハマは、「大山送信所」からラジオの電波をとばしています。総務省から放送免許をもらって、神奈川県を中心にラジオ放送をとどけています。放送は、神奈川県だけでなく、関東全域までギリギリとどいています。

ぼくは、最近ラジオをきいています。今回取材して、ラジオをもっと聞きたくなりました。(2019.1.15)

富士通エフサスのよいところ

記事：長谷川 綾

富士通エフサスは、サービスや技術を提供する会社です。ICT（Iはインフォメーション（情報）Cはコミュニケーション（通信）、Tはテクノロジー（技術）という意味）をつかって、将来どんなものが必要なのかを考える会社です。

富士通エフサスではお客様がどのようなことを考えているかの真実を引き出したり、それに気がついて伝えたりするお仕事もしています。

そのような仕事をするときに、多様性を大切にしながらコミュニケーションをたくさんしたり、ワークショップでレゴなどをつかって、頭の中をやわらかくしたり、整理したりするときもあるそうです。

昔は馬車道で、『教育』をメインの仕事をしていました。今はここ、みなとみらいのクイーンズスクエアに移転しましたが、それは貿易港、みなとみらいという雰囲気に今、富士通エフサスがやろうとしていることが、合っていたからです。会社らしく見えない、家の居間のような雰囲気を作ったのは、本音が自由に言えるようにしたいと思ったからです。この場所は、窓からよく花火が見えたり、太陽がさんさんと入ってきたりして、いい場所です。

富士通エフサスのこだわりは、自分の会社がもうかる、というだけではなく、みんなも自分も得するように、ウィンウィンになるようにサービスを提供して、お客さんが得することを考えたいと思っていることです。人が好きな人が大前提で、そういう人に向いている会社だということでした。

(2019.1.19)

Cafeあにみに行きました！

記事：丹治 陽貴

ぼくは、アニミはすごいところだと思います。なぜならアニミは、障がいのある人がつくったパンやアクセサリーなどを販売して、障がいのある人をサポートしているからです。カフェ内に、横浜市の前副市長の書いた絵がかざってあったことにびっくりしました。その絵は夕焼けのみなとみらいの景色を描いたもので素敵だと思いました。前副市長がアニミのやっていることを応援しているということなんだな、と思います。

ぼくたちはお昼にいったので、みんなでランチを楽しみました。ここで出しているカレーと、障がいのあるひとが作ったパンがおいしいので、ぜひ行ってみてください。特にぼくは特製アニミカレーがクセになる美味しさでおすすめしたいです。

(2019.1.19)

あにみはすごいカフェ

記事：矢吹 昊大

ランドマークタワーのすぐ近くにある、クロスパティオの中にある、アニミというカフェに取材に行きました。代表をしている、服部たろさんという、車椅子の方が取材に答えてくれました。この施設では、障がいのある人たちの作品を展示して販売したり、作品をつくる作業などもして、カフェの運営もしています。障がいがあってもとても元気で僕はすごいと思いました。アニミのカレーはすごくおいしかったです。僕はとても尊敬したいと思いました。

(2019.1.19)

豊かな体験を通した学びフォーラム

記事：山本 承太郎

皆さんにとって豊かな体験とはどのようなものでしょうか。楽しかった体験や悔しかった体験、何か新しいことに挑戦した体験、など体験と言っても人それぞれです。けれども、それらの体験を経験した後、僕たちは必ず成長していると思います。これからの未来、僕たちはどんな豊かな体験をして行けばよいのか、そんなことを考えた取材でした。

富士通エフサスのオフィスでは、さまざまなイベントが開かれています。今回取材したのもその 1つで「豊かな体験を通した学びフォーラム」という学校の先生主催のイベントでした。子どもに豊かな体験してもらうために、まずは周りの大人が豊かな体験をしてさまざまなことを感じよう、というのがイベントの目的でした。この日は多くの先生方だけでなく、たくさんの企業の方々も参加していましたが、僕たちジュニア記者に気軽に声をかけてくださり、楽しく参加することができました。

最初に心をほぐすアクティビティをしました。４つのグループに分かれ、「私、あなた」と言いながらグループの誰かを指してどんどんつなげるゲームや、ストーリーになっている絵を一人一人が持ち、英語だけで順番に並べるゲームなどをしました。大人たちが小学生のような遊びを真面目にやっている姿を初めて見て、少し驚きましたが、ゲームが終わったときには自然と参加者の距離がちぢんでいました。

太陽住建という会社の河原社長から「学校教育と企業の関わり」についてのお話が終わった後、全体でワークショップをしました。6人ほどのグループを作り、１つセッションが終わるごとに全員が他のグループに旅立つというワールドカフェ形式でした。さまざまな立場の人たちが自分、または他人の豊かな体験について考え、それを国連で決められた SDGs（持続可能な開発目標）にてらし合わせました。こんな見方もあるのか、そんなとらえ方もあるのか、と驚きの連続でした。

(2019.1.19)